

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：32619

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23560772

研究課題名(和文)片山家所蔵史料の調査に基づく片山東熊の建築設計に関する基礎的研究

研究課題名(英文)Basic Research for architectural design of Katayama Tokuma based on Katayama Archives

研究代表者

伊藤 洋子(渡辺洋子)(ITO (WATANABE), Yoko)

芝浦工業大学・工学部・教授

研究者番号：40327755

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：片山東熊は工部大学校を卒業し、明治に活躍した建築家である。未公開であった同家史料を調査し、資料集を作成して彼の設計に関する経過や意図を明らかにした。

結果 史料による片山の交友関係は田辺朔郎や、新家孝正らも含め、A東京大学関係、万里小路通房らB長州藩関係、河辺正夫らC装飾と芸術関係、に概ね大別できる。アーツ・アンド・クラフツなど近代建築運動に邂逅 装飾家J.D.ハイマンと協同。明治宮殿「御車寄受附之間」設計では洋風要素を導入し、近代和風建築成立に貢献 濃尾大地震を契機に耐震を考慮 片山東熊設計の確証が無いとされていた神宮農業館の図面に東熊印を発見し、関与の確実化が判明した。

研究成果の概要(英文)：Tokuma Katayama is a leading architect in the Meiji era. Unlisted historical materials in Katayama Archives were investigated and a collection of the documents was completed to clarify the process and intention on his design.

1.The acquaintances of Katayama through historical materials can be almost classified roughly into 3 groups, A:Tokyo University relations, including Sakuro Tanabe and Takamasa Niinomi and B:Choshu feudal clan relations, including Michifusa Madenokoji, and C:decoration and art relations, including Masao Kawabe. 2.Katayama encountered a modern art movement like Arts and Crafts. 3.Cooperation with a decorator, J.D.Hyman made Katayama an excellent court architect. His experience to design the porch entrance of Meiji Palace is a process for modern Japanese style establishment. 4.Nobi earthquake influenced him to consider its proof. 5.Jingu Nogyo-Kan was said to have no conclusive evidence of his design, but his stamps were discovered and his participation became clear.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 建築史・意匠

キーワード：片山東熊 片山家資料

1. 研究開始当初の背景

片山東熊(1854-1917)は工部大学校造家学科の第一期卒業生であり、明治を代表する建築家の一人である。代表作である旧東宮御所(現在の迎賓館)は2009年に国宝指定され、再び強い脚光を浴びている。本研究は片山東熊の玄孫(孫の孫)である原正彦氏との建築史ゼミを通して、祖母である片山満子氏(鎮熊氏夫人)の知遇を得たことから、これまで公開されることの無かった同家所蔵史料を閲覧・調査する機会を得て開始された。

2. 研究の目的

片山家に現存する史料は表1のリストに示すように、葉書、写真、サンプル帳を中心としている。まず綿密な書誌学的研究をおこない、それをベースとして東熊の交流関係を軸に、建築との関係を解き明かすことを目的とする。

片山東熊とその作品については、小野木重勝氏、堀越三郎氏、藤森照信氏、塩田昌弘氏、鈴木博之氏らの研究があり、また作品を収録する図集・写真集も多く、枚挙にいとまがない。しかしながら片山の私的な資料は散在しているとされ、遺品についても殆ど知られることは無かった。今回、同家に残る書類や遺品を調査し、特に下記の諸点を明らかにする。

- (1) 片山家所蔵の諸史料の正確な書誌学的把握・内容の解明
- (2) 書簡(葉書)による交流関係(公的・私的)の解明
- (3) 「サンプル帳」各巻と実際の建築作品の関係
- (4) スケッチおよび模型写真と実際の建築作品の関係

上記より、片山東熊の建築設計に関する意図とプロセス そのキーワードとして「片山作品における構造・装飾・和風」を設定

3. 研究の方法

- (1) 本研究はまず片山家所蔵の諸史料を実測・写真撮影によってリスト化し、各々解題することを基本とする。(前述、目的の①)
- (2) 聞き取りによって片山家の家系図を作成し、先行研究や文献も用いて、書簡(葉書)の差出人の関係を特定する。葉書は仕事上のもの、私的交流のもの、親類関係、その他等に分類できる。葉書を年代順に並べ、東熊の設計作品や既存の年譜に沿って史料のもつ意味を探り、知見を得る。
- (3) サンプル帳やスケッチ、模型写真については、②で作成した新しい年譜および実際の建築作品と照合し、それらと関係する建築作品を探し出す。
- (4) 上記を発展させテーマを設定することにより、片山の設計作品における意図やプロセスを明らかにする。

4. 研究成果

- (1) 平成23年度までに撮影した史料について、各史料の内容をまとめた。葉書の差出人との関係および内容を解明し、サンプル帳やスケッチ、模型写真については東熊の実際の建築作品と照合した。

さらに伊勢徴古館・農業館で青焼き図面類を調査し、詳細に分析した。

- (2) 平成24年度は、それ以前に未調査であった片山家資料中の辞令類・履歴書をすべて閲覧、実測・撮影調査し、内容を把握した。

その他に片山東彦氏邸においてはブロンズ像やメダルレリーフ、位牌などの重さを含む法量も計測することができ、かつ葉書類についても、大きさを計測した。これで現在、片山家に残る資料のほぼ全容を把握した。(但し陶器等土産品類を除く)

その一方で片山東熊が関与した震災予防調査会の小屋組構造の源泉や、片山の出自を正確に把握するべく、故郷である山口県萩市で調査を実施した。

表1 片山家史料(この他に辞令128通)

番号	資料名	数量	番号	資料名	数量
1	はがき	238枚	16	明治/大正天皇皇后両陛下御写真帖	1冊
2	図面	6枚	17	伏見桃山御陵工事写真	1冊
3	写真	25枚	18	青山御大葬式場建築記念写真帖	1冊
4	サンプル帳-壁紙	1枚	19	大正十年 陸軍大演習写真	1冊
5	サンプル帳-調度品	11枚	20	代々木御大葬儀御式場御新営工事記念写真帖	1冊
6	サンプル帳-鉛筆画	12枚	21	明治天皇大葬儀写真	1冊
7	サンプル帳-装飾	4枚	22	コンドル博士遺作集	1冊
8	片山のスケッチ・図面と思われるもの	2枚	23	塗料界(第3巻 第5巻)	1紙
9	建築物の中写真	1枚	24	日本ペイント製造株式会社新株募集規定	1冊
10	模型写真	2枚	25	日本ペイント製造株式会社現在及将来	9点
11	メニュー表	1枚	26	壺	1
12	田邊秀雄のスケッチと思われるもの	1枚	27	メダリオン(モチーフ片山東熊)	1点
13	旧帝国奈良博物館パース	1枚	28	ブロンズ胸像(モチーフ片山東熊)	1体
14	皇后陛下御歌	一首	29	位牌	1柱
15	御歌	一首			

かつ京都では九条山ポンプ室の建築を実地調査した。ここでは琵琶湖疎水を実現した義弟である田辺朔郎とのつながりのみならず、匠頭としての東熊の立場をよく理解できる資料を京都府総合資料館で入手できた。

(3) 平成 25 年度には片山家資料でもっとも点数の多い葉書資料について 未解読箇所を解明し、全体を含めて資料集を作成した。近代の葉書資料の研究者の協力を得て、校閲を進めることができた。(資料集は現在私家版であるが、片山家の許可が得られれば出版予定である。)

また片山家資料中「御車寄受附之間」の図面については、都立中央図書館木子文庫の図面類により、明治宮殿の家具等内装を任された東熊が J. D. ハイマンとともにこの部屋の意匠を決定していく途中段階のものと同判した。

(成果 1)

片山家資料から下記諸点が判明した。

①はがき資料から見てきた、片山の人間関係は義弟である田辺朔郎や、仕事上でも繋がりが深い新家孝正らも含め、A 東京大学関係、万里小路通房ら B 長州藩関係、河辺正夫ら C 装飾と芸術 (現東京藝術大学) 関係、の三つに概ね大別できる。また、日本大博覧会など設計競技等を通じて後進を啓発していたことも明らかである。

②1882 年、片山は有栖川宮邸建築掛を拝命し室内装飾品の調達のため海外視察を任命されていたが、片山家資料内の壁紙は、有栖川宮邸における渡欧視察の際に購入したと思われる。その際、W・クレインのデザインによるアーツ・アンド・クラフトの成果を入手していたことがわかる。様式建築家として認識されてきた片山であるが、近代の建築運動の端緒に邂逅していたのである。

③宮廷建築家としての経歴を歩むにあたり、ヨーロッパの一流装飾家 J. D. ハイマンと協同した。「御車寄受附之間」の図面では木子の和風建築を変更してマントルピースなど洋風要素を導入する過程が見て取れ、日本独自の宮廷建築 (近代和風) 手法成立に貢献したと言える。

④ 濃尾大地震を境に西洋の技術に対する単なる接受から乖離し、耐震への考慮を開始した。資料中の構造模型の写真などは震災予防調査会に参加した証でもある。東熊が建築構造のために作成した改造案があることも明らかになった。

(成果 2)

以上、片山家資料を種類別にまとめ、資料集を作成した。その一部を図 1 に示す。資料番号、種別、法量 (大きさ)、写真、内容 (解読分) から構成している。

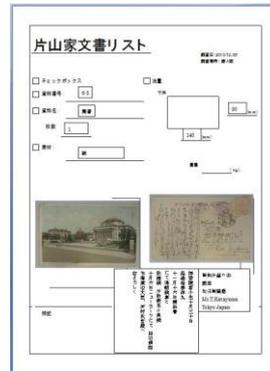


図 1 片山家資料集 (葉書の一部)

(成果 3)

神宮司庁の協力を得て、神宮農業館、神宮徴古館の調査を実施した。農業館の図面 4 面に「東熊」印を発見した。同建築は『三重県の近代和風建築報告書』に「片山東熊の設計であるとされるがその確証なし」と発表されていたが、この発見により東熊の関与は確実となった。さらに伊勢の都市計画に関する神苑会の業績を明らかにした。(表 2)

表 2 神宮徴古館・農業館所蔵史料リスト (農業館関連)

- 1 神宮農業館電灯配線図 (青焼) 1
- 2 神宮農業館平面図 2
- 3 農業館ヤンマー館平面図 1
- 4 農業館屋根伏図修繕カ所の記入有 (青焼) 1
- 5 農業館外部腰回りペンキ塗替箇所指定図 (青焼) 2
- 6 農業館建築工事行程表 1
- 7 農業館事務所敷地々均し断面之図 1
- 8 農業館事務所敷地々均し平面之図 1
- 9 農業館図面巻〜拾巻 (貳は現存せず) 10
- 10 農業館正面建中央棟 1
- 11 農業館屋根伏図 (青焼) 1
- 12 農業館小屋組軒図 (青焼) 1
- 13 農業館小屋組軒之図 (青焼) 1
- 14 農業館正面・側面 (青焼) 2
- 15 農業館増築断面図 1
- 16 農業館側面及中坪戸口外面図 (青焼) 1
- 17 農業館側面及中坪戸口截面図 (青焼) 1
- 18 農業館中央広間正面図 (青焼) 1
- 19 農業館中央広間平面図 (青焼) 2
- 20 農業館中央広間裁図 (青焼) 1
- 21 農業館平面図 (青焼) 2 図中の東熊印→
- 22 農業館截面 (青焼) 1
- 23 農業館後部陳列室小屋組 (青焼) 1
- 24 農業館左右昇降室小屋組 (青焼) 1
- 25 農業館小家梁配置図 (青焼) 1
- 26 農業館床伏図 (青焼) 1
- 27 農業館正面中央昇降室小屋組 (青焼) 1
- 28 農業館其二外面<正面中央昇降室前面上部壁> (青焼) 1
- 29 農業館陳列ケース配置図 1
- 30 農業館陳列品証明工事引込線工事配線図 (青焼) 1
- 31 農業館展示仕様書 1
- 32 農業館之図 1
- 33 農業館敷地図面 1
- 34 農業館平面図 1
- 35 農業館平面図ヤンマー館の記入有 1
- 36 農業館平面図照明ケース取付消化器設置場所 1
- 37 農業館平面図青写真 1
- 38 農業館平面図柱間尺度等詳細 1
- 39 農業館別館一階二階平面図旧徹下御物陳列所 1



5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 4 件)

①磯俣祐介・原正彦・渡辺洋子「神宮徴古館・農業館に関する一考察」日本建築学会計画系論文集 第78巻 第691号, 2031-2037, 2013年9月 (査読有り)

②玉野将和・原正彦・磯俣祐介・渡辺洋子・中野恒明「片山東熊に関する研究-片山東熊の人物像を追って-」日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ pp.557-560 2013.3 (査読無し)

③磯俣祐介・渡辺洋子・原正彦・市野瀬優大・中野恒明「片山東熊の震災予防調査会における活動と建築作品について」日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ pp.553-556 2012.3 (査読無し)

④原正彦・渡辺洋子・市野瀬優大・中野恒明・中山まりか「片山東熊の遺した資料-はがき資料を追って-」日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ pp.663-666 2011.3 (査読無し)

[学会発表] (計 4 件)

①玉野将和・原正彦・磯俣祐介・渡辺洋子・中野恒明「片山東熊に関する研究-片山東熊の人物像を追って-」日本建築学会関東支部研究発表会 建築会館 2013.3.6

②磯俣祐介・渡辺洋子・原正彦・市野瀬優大・中野恒明「片山東熊の震災予防調査会における活動と建築作品について」日本建築学会関東支部研究発表会 建築会館 2012.3.7

③ Yoko Watanabe, Masahiko Hara, Yuta Ichinose, Yusuke Isomata, Masakazu Tamano, Hoko Miwa, Satoshi Yoshikawa: A Study on the Tokuma Katayama Archives -Design Characteristics of the Leading Architect in the Japanese Modernization Period- 6th SEATUC Symposium CDR 03-30-104 モンクット王トンプリー工科大学 (KMUTT タイ) 2012.3.7

④原正彦・渡辺洋子・市野瀬優大・中野恒明・中山まりか「片山東熊の遺した資料-はがき資料を追って-」日本建築学会関東支部研究発表会 建築会館 2011.3.4

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

上記学会論文 磯俣祐介・渡辺洋子・原正彦・市野瀬優大・中野恒明「片山東熊の震災予防

調査会における活動と建築作品について」の発表に際し、磯俣祐介が「2011年度 第82回日本建築学会関東支部研究発表会 若手優秀研究報告賞」を受賞

<http://kanto.aij.or.jp/images/pdf/wakate/wakate2011.pdf>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 洋子 (渡辺洋子) (ITO, Yoko)
(WATANABE, Yoko)

芝浦工業大学・工学部建築工学科・教授
研究者番号：40327755

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし